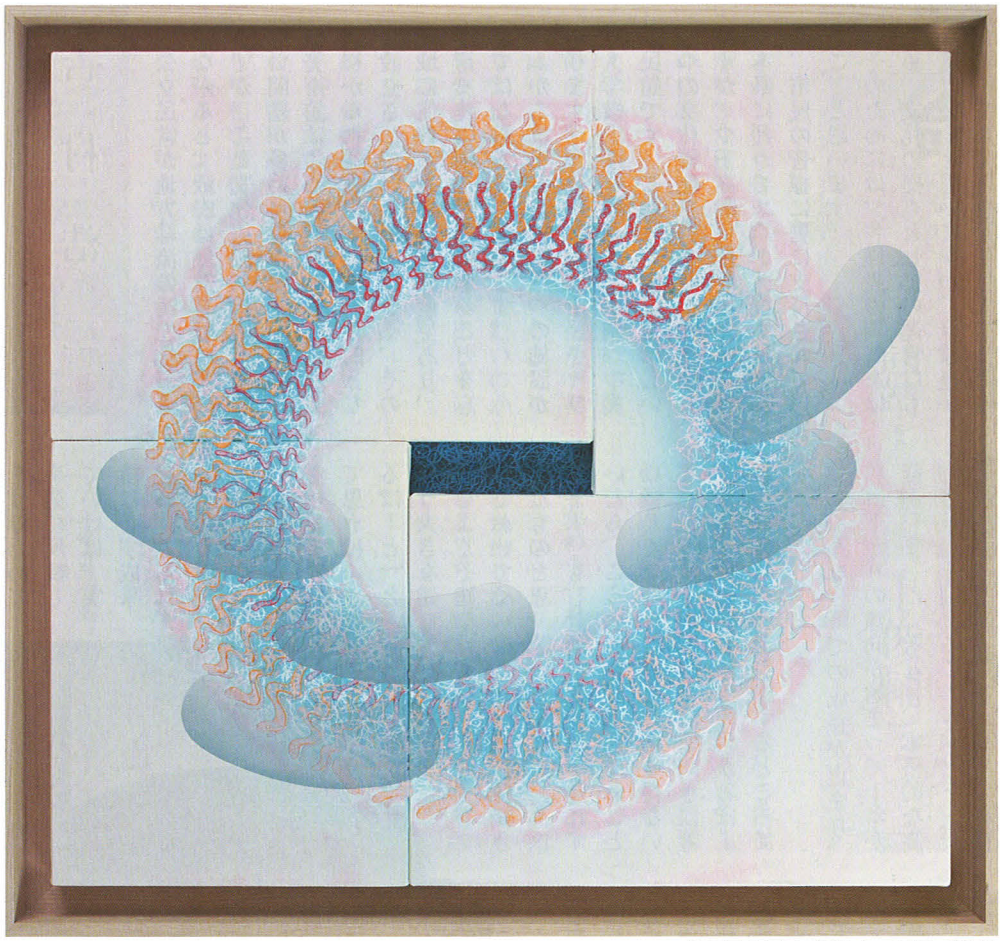
子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2006年9月　NO.133



「真昼の星座（青）」　安藤　義孝

〈もくじ〉

これからの十年 …… 吉村浩二　2
一生懸命 …… いちむじん（宇高靖人・山下俊輔）3
ＡＳ奈路倶楽部（あすなろクラブ） …… 川村一成　4～5
高知県の映画事情と、自主上映サークル
“とさりゅう・ピクチャーズ” …… 田辺高英　6～7
高知の女性の生活史
「ひとくちに話せる人生じゃあない」はこうしてできた
～女たちの歴史を編む～ …… 松本瑛子　8～9
裁判員制度について …… 濵岡良二　10
高知出身まんが家を顕す …… 奥田奈々美　11
海の環境教育 …… 京谷直喜　12
７～８月の事業のご報告 …… 13
風俗歳時記・風伯 …… 14～15

（財）高知市文化振興事業団

これからの十年

吉村浩二

円形の新しい融合の場として「かるぽーと」が始動してから、早くも五年目に入りました。建築の構想の段階から数えると、十年の歳月が経過しています。

この十年という歳月は、歴史的に見て大変動期であったことは間違いありません。近代日本を歴史的に検証する場合、明治維新、第二次世界大戦の敗戦に続く、第三の大きな波の変動期といえます。こうした歴史の背景の中で、「かるぽーと」は計画され、構築物を造り、動き始めたということになります。

長びく不況に伴う構造改革・情報技術の急速な普及と拡大、少子高齢化社会となる人口減、今迄に経験したことのない大きな波が「かるぽーと」にも被さってきています。

政府の構造改革案の中のひとつに、規制緩和があり、行政サービスの民間委託という名目で、指定管理者制度があります。官公庁が建てた物を民間に運営させる公立民営の対象として「かるぽーと」も含まれています。

公立民営が地方経済の活性化にもつながると、政府は促進を計っていますが、こと文化施設に於いては難しい問題が多いと思います。図書館や美術館はじめ各種の文化施設は、当初から利益を出すことを目的として設立されている訳ではなく、その地域に住む人達の文化財産であり、芸術文化の創造拠点であることを忘れてはならないと思います。

「かるぽーと」には四つの施設があります。文化ホール、市民ギャラリー、横山隆一記念まんが館、中央公民館です。これは全国でも珍しい四つの文化機能を持つ綜合文化施設ですが、少子高齢化社会の先陣を行く本県にとってユニークな施設として、市民の皆様に更に支持されていくことと思います。

そのためには、各施設の調整をはじめ、文化の拠点としての運営にも課題は多いと思いますが、経験豊かな職員の人達を中心として、各文化団体の代表として参加いただいている評議員、理事の皆さん、加えて利用者の皆様という四つの声を受けとめて事業に反映していけば、実績は必ず成果をあげてくれるものと確信しています。

それにしても、いまにして思うに「かるぽーと」という大きな建物をよくぞ建てておいてくれたものと思います。もし計画着工が数年遅れていたら、こういう施設は建てることは難しく、今後も建設はあり得ないと思わざるを得ません。前向きに考えて、文化の核としての「かるぽーと」でありたいと念願するところです。

いろんな分野での成長が止まり、右肩下がりの傾向が始まって十年が経過しました。そして、本格的な高齢者社会を迎えることになりました。その現実を忘れることなく、まず「これからの十年」にどう対応していくかが重要な案件であると思います。

地方社会が疲弊していくひとつの過程として、町の文化と祭の文化の衰退があります。幸いにして高知には誇れる歴史と伝統に基づく独得の文化があり、全国を巻き込む程の祭があります。この先人が残した財産を、今後どう更に生かしていくか。そして「かるぽーと」がその拠点としての役割をどう果たしていくか、市民の皆様の声援と支持を追い風として、着実な歩みの「これからの十年」を目指したいと願っています。

（よしむらこうじ／(財)高知市文化振興事業団新理事長）

一生懸命いちむじん

（宇高靖人・山下俊輔）

「いちむじん」は、土佐弁で一生懸命という意味です。去年までは「クラージュ」（フランス語で勇気の意）にしていたんですが、高知をもっと広めたいという思いと、何事も一生懸命やっていこうということで、「いちむじん」にしました。

僕らが出会ったのは、岡豊高校ギター部で高校二年の時です。岡豊ギター部は、GLC学生ギターコンクール全国大会を目指している部活でもあり、ギターソロ演奏を主としています。

僕らは、顧問の松居孝行先生に基本的なものを教えて頂きました。ギターの構え方はもちろんのこと、指の動かし方や体の使い方、音の表現の追求、演奏の心構え、コンクールのやり方。ある時は、広島風お好み焼きの作り方まで教えて頂きました。

松居先生との間に強い信頼関係が生まれ、信じ合う事の大切さも学ぶ事ができた僕らは、松居先生との出会いに心から感謝しています。

大学に入り、松居先生の薦めで僕らのデュオ演奏が始まりました。初めは、二人が合わないということよりも、自分達が音で何をしたいのかが分からず、ただ単に音を出しているだけという状態の方が問題でした。

約一年間、毎日三時間以上二人で練習を積み重ねていくうちに、二人がお互いに成長してゆき、自分自身、そして相手が何をしたいのかが少しずつ分かるようになりました。そこでやっと「二人」の音楽が出発しました。

僕ら「いちむじん」は、人の心を動かす演奏を目指しています。その為、さまざまな人々の考え方や感じ方を学び、意味ある音作りをしていきます。

高知で生まれ高知で育ったことで、その感性が自然に演奏に出ています。それが僕たち「いちむじん」の最大のカラーだなぁと思っています!!

今年の十一月九日にはグリーンホールでコンサートもあります!! 高知でしか出せない音や演奏の雰囲気もあると思うので、僕たちも今からすごく楽しみにしています!!

これからも高知の人の暖かさ、自然の良さを、日本、世界中に広げて行きたいと思っていますので、応援よろしくお願いします!!

頑張るきねぇ!!（笑）

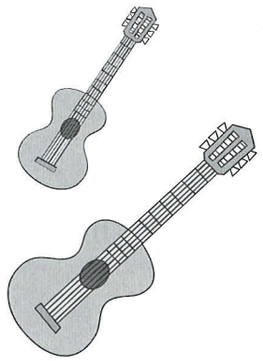
（うだかやすひと・やましたしゅんすけ／いちむじん）

『いちむじん』

高知県出身のクラシックギタリスト、「宇高靖人&山下俊輔」による新世代ギターデュオ。

桐朋学園芸術短期大学在学中に結成。第十六回日本重奏ギターコンクールにて、堂々優勝。七月には新国立劇場近江楽堂にて単独リサイタルを行い、東京を拠点にクラシックからポピュラー、現代音楽まで幅広く活動を行っている。

クラシックギターの繊細な表現力を最大限に引き出しつつも、クラシックの枠にとらわれず和のテイストをふんだんに取り入れた男気溢れるステージを魅せている。



AS奈路倶楽部（あすなろクラブ）

川村一成

「皆さん、お疲れさま。二人ばかり怪我人は出ましたが、大盛況のうちに終わることができました。それでは乾杯、といきたいところですがその前に、校長先生、一言お願いします」

「それでは一言。去年の春、この奈路小学校に赴任して、一番の楽しみがこの泥んこ球戯大会でした。でも、当日は雨、中止でした。私でさえ残念でしたので、皆さんの残念、田んぼの中にバレーボールのコートをつくる大変さばかりか、売店やそのほかたくさんの準備が無駄になったことの悔しさはさぞかしと思ったことでした。あれから一年、今日はうって変わって見事な『泥んこ日和』、おかげで私も皆のお顔もまっかっか」（このあたりで「手短にお願いします」の声あり）

「ではでは、手短にもう一言。それにしても午前中のバレーボールや泥んこ相撲に、県下各地からあんなにたくさんの人が集まるとはびっくりです。また、AS奈路倶楽部のみなさんは、それぞれチームをつくってゲームを楽しみながら、運営も当たり前にこなしておられました。あらためてスゴイと思います。午後の、子どもたちの泥んこ運動会も素晴らしく、子どもたちの、泥まみれになりながらのあの笑顔、あれこそが奈路なんですね。AS奈路倶楽部のみなさんはもとより、地域の皆さまに支えられてこその子どもたち、そして奈路小学校ということを心底感じた一日でした。最後に一言、『泥の温もりは、地域の温もり』、さあ飲みましょう」

今年五月の「泥んこ球戯大会」のあとの慰労会の一幕。一言にしては長い挨拶も、乾杯の前から飲んでいるので、少々茶々が入って場はより盛り上がる。

宴もたけなわの折り、やおら立ち上がって発言する女性もいる。

「みなさーん、六月のコンサートのチケット、売れゆうかねえ」一同シーン。

「まあ、この『泥んこ』が済むまではそっちまで気が回らんかったがよ」

「明日から、義理売り、押売り、泣き落し、でやりまーす」

「コンサートのあと、七月には北海道の支笏湖小一行、なんと二十三人も来るよね」

「それはPTAの仕事じゃろ」

「AS奈路倶楽部も協力せないかんし、第一、メンバーの半分はPTAだろ」

十年前の高知－札幌直行便就航を契機に始まった、奈路小学校と支笏湖小学校との交流は、直行便が廃止された後も「心の直行便」としてますます充実し、当初の「学校間交流」から今では「地域間交流」に発展しているのだ。

「支笏湖のあと、すぐに八月の盆踊りの準備か」

盆踊り実行委員の大半はAS奈路倶楽部員。とにかく忙しい。ま、こんな調子で汗かいて、たまにはベソかいて、笑い合って、励まし合って、喜び合って、そして何より楽しみながら十七年も続いてきたのがこのAS奈路倶楽部。

南国市奈路は高知自動車道南国ICから北西に五kmほど入った山間の、戸数百十戸、人口三百七十人ほどの集落。

昭和三十年代には八十人いた小学校の児童数は年々減少し、平成に入ると何と全校児童十四人になってしまった。また、子どもたちの遊び場だった奈路川周辺は災害復旧工事などで自然環境にまったく配慮のないコンクリート護岸が増えていった。

地域の将来や環境の悪化を心配する声が出始め、地域の中堅、若手の有志が「気軽に奈路のことを話せる場をつくろう」と呼びかけ、平成三年、二十～四十歳代の約五十人でAS奈路倶楽部を結成した。AS奈路倶楽部というのは、「明日の奈路を考え」「奈路のようにといわれる地域にしよう（asNARO）」からのネーミング。

結成当初から月例会、まあほとんど「言いたい放題」の飲み会だったが、「そんなこと無理」「金が無い」などの、できない理由をなるべく言わない、というのが唯一のルールということもあって好き勝手なアイデアが続出。

最初の大仕事は、小学校体育館のこけら落としの「ASなろコンサート」。プロのサックス奏者梅津和時氏率いるジャズバンドを呼ぶことにした。ジャズなんて誰も聞いたことがない。チケット作りは？　会場設営は？　音響は？　だいいち資金は？　何もかにも全くの手探り・手作りでの取り組みだったが、何と三百七十人のお客さんを集め、中身も素晴らしく、しかも黒字。「やればできる」とすっかり自信をつけたイベントとなったのだった。

その年の秋には「あすなろコンサート」第二弾。再び梅津さんと二人のアメリカ人を招いて、観客四百三十人。こうなるともう怖いものなし。翌年には「草の根国際サッカー交流ツアー」と称してインドネシアのバリ島へ飛んでしまう有様。

この後、「あすなろコンサート」はジャズや津軽三味線や南米アンデスのフォルクローレなど不定期に八回開催。

そのほかにもいろいろとやってきた。

・『ワークショップ「畦道探検団」』
・『交流ツアー』（島根県松江市・赤木町、山形県余目町など）
・『交流キャンプ』（十和村、大豊町など）
・『川の環境調査』
・『センスアップASなろカレッジ』
・『泥んこ球戯大会』（十二回）
・『炭焼き』
・『高齢者見守り活動』
・『花見交流』（夜須町菖蒲谷など）
・『夏祭り』『敬老会』『地区民運動会』
etc.

支離滅裂とはまさにこのこと、でも一応倶楽部のコンセプトはある。

① 積極的に住み、楽しむ
② THINK GLOBAL ACT LOCAL（視野は広く、活動は足許から）
③ 子どもたちを巻き込む

ちなみに、今年の奈路小の児童数は四十人。過疎化、少子高齢化の流れの中で児童数が増えたところは県下でもここだけではないだろうか。

このことは市営住宅の誘致、校区外からの通学OKの「小規模特認校制度」の導入によるところが大きいが、奈路は元気で楽しそうな所、というイメージをつくってきたAS奈路倶楽部の隠れた功績を見逃したらいかんぜよ。（裏話もある。倶楽部結成以来、「もう一人運動」、こどもをもう一人、というのを非公式に奨め、それなりの成果はあったのだ）

地域づくりは人づくり、といわれる。ではその「人」とは？　特別な能力はなくてもいい。「プラス思考」であれば。

あれもない、これもない、行政は何にもしてくれない、と愚痴っても嘆いても何の展望もない。一人ひとりの力を高めることによって「住民力」をつけ、楽しみながら積極的にかかわることによって地域を元気にしてゆく。そのためにも学校は大事な核であり、「地域あっての学校、学校あっての地域」の共通認識のもと、子どもたちも巻き込みながら、住んでみたい、住み続けたい奈路となるよう、今後も支離滅裂な活動を続けるAS奈路倶楽部です。

（かわむらいっせい／AS奈路倶楽部事務局担当）

高知県の映画事情と、自主上映サークル〝とさりゅう・ピクチャーズ〟

田辺高英

みなさん、一番最近映画を観たのはいつですか？ここで言っている映画とは、ＤＶＤやビデオではなく映画館やホールで、映画を映画として観ることです。昨年、夜須町を舞台にした岡田主監督の「ＭＡＺＥ」が製作・公開されましたが、ご当地映画でもあり、普段映画館に来ない方々がたくさん鑑賞に来られていて、その上映会場で少し年配の女性二人が「数十年ぶりに映画を観た。やっぱり映画はえいなあ～」と話されているのを聞きました。

この思いは、とてもよくわかります。映画の魅力は、お友達など会場の人たちといっしょに笑ったり、怒ったり、泣いたりと、感動を共にすることにあります。だから、どんなに家に大きなテレビがあったとしても、映画で味わう感動や爽快感は、ＤＶＤやビデオで観るのとは違った特別なもの、本当に心に残るものなのです。

〝とさりゅう・ピクチャーズ〟は、自分たちで選んだ映画を上映していく愛好者のサークルです。昨年の十一月に映画好きが集まって立ち上げました。きっかけは、高知市内の映画館の閉館でした。

現在、高知県の映画事情は、大きく変わってきています。二年前にショッピングセンター内にオープンしたシネコンは九スクリーンを構え、大スクリーンと最新の音響設備で映画の醍醐味を体感できるすばらしい映画館です。このシネコンがオープンしたおかげで、ひさしぶりに映画館に来たという人たちがたくさん出てきたことはうれしく思います。

その一方で、高知市中心商店街の映画館の閉館が相次ぎ、結局メジャー直営館三館がすべてなくなってしまいました。高知のオフシアターベストテン選考会事務局長山本嘉博さんがまとめられた「高知の映画状況（二〇〇二以降）」の表の、劇場公開の本数を見てください。シネコンと既存の映画館が並立し競合していた二〇〇四年・二〇〇五年は上映本数が飛躍的に増えていますが、商店街の映画館が閉館した今年二〇〇六年は、やはり上映作品が減っていくと考えられます。また、シネコンで上映される映画は、東宝・松竹・東映そしてハリウッド作品を中心にしたメジャー系の作品がメインになり、インディーズの作品や小さな配給会社が世界各国からとってくる単館系の映画そしてアート系の映画の上映には熱心ではありません。しかし、そういう映画の中にこそ素晴らしい作品が多く、そんな映画を、きちんと映画として（大画面でみんなで）鑑賞したいという声が、たくさんあります。〝とさりゅう・ピクチャーズ〟は、そんな〝映画を観たい〟というみなさんの声を集め、自主上映会を進めています。

高知の映画状況（2002以降）　高知のオフシアターベストテン選考会事務局長　山本嘉博さんのまとめ

	高知市周辺での上映作品総数			備　考	キネ旬ベスト10作品の上映状況			備　考
	外国映画	日本映画	合 計		外 国	日 本	合 計	
2002年	180	137	317		9	6	15	
劇場公開	86	69	155		2	6	8	
オフシアター	94	68	162		7	0	7	
2003年	157	147	304		10	9	19	
劇場公開	54	63	117		6	2	8	
オフシアター	103	84	187		4	7	11	
2004年	189	154	343	シネコン誕生	9	8	17	うちシネコンは
劇場公開	92	78	170	高知東映閉館	6	7	13	外国１
オフシアター	97	76	173		3	1	4	日本４
2005年	198	208	406		10	9	19	うちシネコンは
劇場公開	143	114	257	松竹ピカデリー閉館	8	5	13	外国３
オフシアター	55	94	149		2	4	6	日本３

〝とさりゅう・ピクチャーズ〟の特徴は、日本映画を上映することです。

高知県では、これまでも自主上映サークルの活動が盛んで、表にあるように、映画館以外で上映されたオフシアターの本数がかなりの数になっています。いろんな映画が上映されていますが、新作日本映画の上映が少ないのが弱点でした。（表のオフシアター上映の日本映画の数は、名作古典邦画の特集上映が大半です。オフシアターでは日本映画の新作は少ないです）

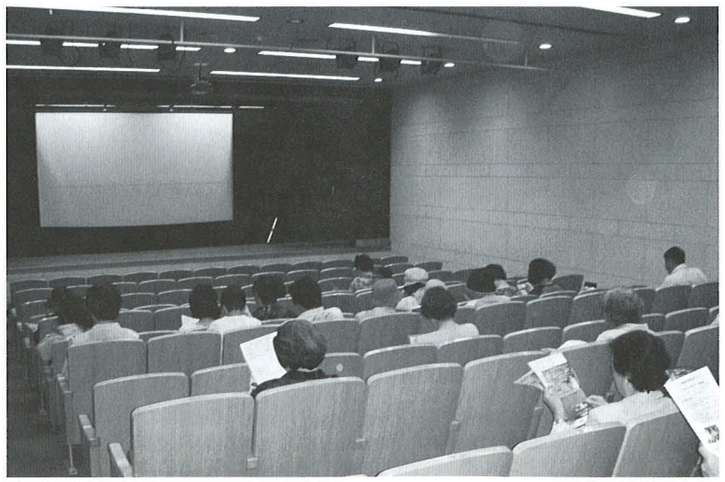
いい作品を上映しても日本映画は観客が少なく経済的に成立しにくいのが理由ですが、日本映画が内容で洋画に劣るわけではありません。また、二〇〇〇年に始まった文化庁による日本映画振興政策により、製作本数も大幅に増えています。そこで日本映画の新作に的を絞って上映しようと他の映画サークルの協力を得ながら活動しています。

映画には、現在の社会で起こっていること、流行や事件など社会情勢が反映します。時代劇やＳＦであったとしても、現在の自分たちの状況や思いが形をかえて映し出されています。そのような映画の背景を感じ取って映画の世界に入り込めるのが、映画の魅力です。だからこそ、自分たちの住んでいる今の日本の旬の映画を観たいし、観てもらいたいと思っています。

〝とさりゅう・ピクチャーズ〟で十月に予定している映画「三年身籠る」もそんな映画です。この映画は、妊娠した妻が予定日を過ぎても子どもが生まれず、身籠ったまま三年がすぎてしまうという実際はありえない設定ですが、なかなか生まれてこない子どもに対して、未熟な夫婦（特に男親の方がダメダメなんですが）がいろんなことを考え、お互いに協力して子どもの親として思いを新たにしていきます。映画に込められたテーマは、今の少子化であり、親としての自覚、男親の育児参加です。現在、ニュースで〝親としての自覚がない〟としか思えない幼児・児童虐待の事件が頻繁に取り上げられていますが、こんな社会だからこそ、この映画「三年身籠る」が製作されたのだと思います。そしてこの映画のすごいところは、そんな重いテーマを内に込めながら小難しい啓発ドラマにはせず、優れた脚本と配役で、ちょっとコミカルですごく共感のもてる映画に仕上がっているところです。台詞が少なめですが、そこは同じ日本人なので俳優の微妙な表情やしぐさの演技で逆に心の動きがよくわかりますし、こういったところも日本映画の魅力だと思います。このような映画を上映することによって、高知県の映像文化をより豊かにしていきたいと思っています。

とさりゅう・ピクチャーズ〟は、まだ立ち上がったばかりです。どんな作品を上映するか？上映の日程はどうすればいいか？などアンケートを取り模索しています。みなさん、ぜひ上映会に参加して、日本映画の魅力にふれてもらうと同時に、私たちの活動に対していろんな意見をお聞かせください。いろんな意見や提案を取り入れてよりよい上映会を長く続けていきたいと思っています。

（たなべたかひで／とさりゅう・ピクチャーズ主宰者）



「高知の女性の生活史　ひとくちに話せる人生じゃあない」

高知の女性の生活史「ひとくちに話せる人生じゃあない」はこうしてできた

～女たちの歴史を編む～

〈連載第２回〉

松本瑛子

ソーレの事業として高知の女性史刊行のお話を古谷前館長からお伺いした時、「とても大切な事業だ」「ぜひ実現させて欲しい」「協力させていただきたい」と、外交辞令とジャパニーズスマイルでお応えした。それが実行委員会副委員長と「時代の概要・高知の女性の近現代史」執筆の任を負う羽目になり戸惑った。お役所仕事だもの、計画倒れもあろうし、あわてることないという思いは、官に対する私の誤解と曲解だったのだろうか。

高等学校の日本史の教科書に出てくる女性は男性の三パーセントでしかない。しかも鑑真やペリーら外国人の半分だ。それに、登場するのは卑弥呼や北条政子など権力者層の女性が主だ。文字を持たない庶民は記録を残すことが出来ないし、また普通の生活や当たり前のことは取立てて記録されないから歴史に残りにくい。しかし、高知には、山内一豊を功名に導いた妻千代の内助があり、お馬さんも「坊さんかんざし」のメロディーにのって全国に海外にも伝わっている。そして女性参政権を最初に主張した楠瀬喜多は日本の女性史に必ず出てくる。その他にも、はったか女性をたくさん輩出している高知ではないか。彼女たちの階層も活動も多岐だ。はったかさんを軸にしてみよう。とにかく動き出している、前向かなくては。私ってどこまで脳天気なのだろう。

先行研究調査のため、県史や市町村史に当たってみたが、女性は三パーセントどころかほとんど登場しない。「高知の女性史研究は自由民権ぐらい」とお聞きしていたが、前途多難が予測された。

近代史では新聞の資料的価値が高い。自由民権記念館のお世話になり、大正から昭和初期の新聞をめくってみると、女性も取上げられている。勧業工場で働く女性、行軍の兵隊さんの接待をする婦人会、三面記事には興味津々、「昔もこんなことあったがじゃねぇ」「こんな事で処罰されるがぁ」と読み込んでいった。しかし変だぞ。昭和五年五月には治安維持法違反の一斉検挙があった筈だがその記事がない。百名ほど検挙され女性も含まれている筈だが。『高知県警察史』昭和編で確かめてみたが、一斉検挙の五回目に少し記述があるだけだ。そこで『高知県警察史』を刊行した県警本部を尋ねてみたが、どうも資料が残っていないらしい。『高知県社会運動史』で、一斉検挙から一年後に新聞掲載が出来、『土用新聞』が号外を出したことがわかった。戦時体制は早くから作られており、新聞統制も始まっており、事実も伝えられていないことがわかった。

婦人参政権発祥之地　高知市上町２丁目第四小学校正門　1990年建立
1880年上町町会が全国初の婦人参政権を実現した記念碑

『高知県統計書』が明治十三年から完全ではないが残されている。人口・産業はもとより、興味あるもので物価・就学・疾病・出産など各種統計が示されており高知県の姿が一望できる。これらを並べて整理すれば、女性や社会が見えておもしろい。でも数字だけでは人の顔が見えにくい。固有名詞があってその周辺にも目をやり、時代を読み解いていきたい。

さて、高知の女性史で何を明らかにしたのか、柱立てをしてみようと考えた。植木枝盛は「男女同権ハ南海ノ某一隅ヨリ始ル」と述べたが、高知の女性は時代の節目には自由民権に立ち返り、そこから学ぼうとしてきた。自由民権を近代の出発点にしよう。次の大正時代になっても流行病が繰り返された。零歳児の死は年間死亡者の二割にのぼる。『愛知の女性史』で、明治二十五年生まれの「きんさん」は十一人の子を産み、五人を死なせ、「我が子が死んでも、泣いている暇があったら田んぼや畑に出て働け」と言われたと語っているが、高知でも同じようなことだったと思われる。たくさんの子を孕み、死なせた。

八十歳以上の女性は、青春時代やそれぞれの女の時代を十五年も続いた戦争の中で過ごした。「高知の女性の生活史」のテーマとする聞き書を社会化させなければならない。戦場に夫を送った女性にとって、戦中こそ名誉の戦死として支援の声や手はあったが、戦後は遺族への風当たりが強く、好奇の目も周囲にあった。戦後の改革の享受にはほど遠かった。

一九四六年の総選挙で初めて女性が参政権を得た。この選挙で女性の投票率は予想以上に高かった。新しい時代を作ろうとする気概も高まってくると、家庭内や我が子だけでなく社会にも目を向けるようになり女性の活動の場が広がっていくのである。その一つ、母の会で、憲法に示された「義務教育はこれを無償とする」について疑問の声が起こり、やがて教科書無償要求運動となって、国会を動かし、教科書無償法案が可決されたのである。また男女の平等も、憲法に掲げられているから可なるものではない。労働の場における結婚退職や出産退職の強要に対し、一つ一つ裁判に訴えてその無効を証さなければならなかった。

田内千鶴子生誕之地　高知市若松町丸山橋のたもと　1997年建立
田内千鶴子は韓国の孤児3,000人を育て、木浦の母と慕われる

表題の「女たちの歴史を編む」仕事は、どれだけその時代の女性の声が聞けるかということに懸っている。私は時代を行きつ戻りつする作業で、高知の女性一人ひとりを敬慕する気持ちに導かれた。その一人、小松ときさん（東京都在住・百歳）は反戦運動に身を投じ、治安維持法による一斉検挙を受け、高知署において拷問を伴った取り調べの後、赤岡署に移送された。そこで妊娠に気付いたがどうすることも出来ず、独房で空腹と戦いながら二百二十日の拘留が続いた。ところが私は高知署における拷問を書き落とし、記述に正確さを欠くことになり残念な気持ちと書くことの厳しさが身に滲みた。

高知の近現代女性史では、外崎光広氏のお仕事の大きさに感銘を受けた。高知の自由民権は士族民権だとされ、福島や埼玉の農民を主体にした運動には遠いように言われていたが、図書館に埋もれていた資料や新聞から農山間村々の運動や女性の活動を明らかにした。氏の著作『高知県婦人運動史』を随所で参考にさせていただいた。

（まつもとてるこ／高知の女性の生活史作成実行委員会副委員長）

裁判員制度について

濱岡　良二

私は、昭和五十三年から三年間、高知地方検察庁で勤務させていただいたことがあり、今回は二十五年振りの勤務ということになります。

古い歴史と豊かな自然、そして香り高い文化とその伝統をもつ高知で再び勤務させていただくことを大変光栄に思っております。

かつて勤務していたころと比べますと、現在では、空港がジェット化され、高速自動車道も開通するなど交通の便が随分よくなっておりますし、市内周辺の道路も整備されて街並みも大変美しくなったと思います。

当地を離れることわずか四分の一世紀にしか過ぎませんが、時代の進歩といいますか、その変革にはやはり目を見張るものがあるように思います。

私たち司法の分野においても、現在その改革が進んでいるところです。

その一つが、平成二十一年五月までに実施されることになっている「裁判員制度」です。皆様方は「裁判員制度」という言葉を既に一度や二度は聞かれたことがあると思いますし、制度のあらましについても、ご存知の方が多数おられることと思いますが、折角の機会ですので、この紙面を借りて「裁判員制度」について改めてご紹介させていただき、皆様方の更なる御理解と御協力を賜りたいと思います。

「裁判員制度」とは

一、国民の中から一つの事件ごとに無作為に選ばれた六名の裁判員が、

二、人を死なせた殺人や傷害致死などの重大な刑事事件の裁判に参加し、

三、裁判官と法廷で同じ席に並んで審理に加わり、

四、裁判官と一緒に話し合いをして有罪か無罪かどうかを決めてもらう、

五、有罪の場合はどのような刑にするかを裁判官と一緒に決めてもらう、

という制度です。

この制度の導入で、国民の皆様が刑事裁判に参加することにより、法律の専門家ではない人たちの感覚が、裁判の内容に反映されることになります。その結果、裁判が身近で分かりやすいものとなり、司法に対する国民の皆様の信頼の向上につながるものと期待されています。

国民が裁判に参加する制度は、アメリカ、イギリス、フランスなどの諸外国でも実施されており、G8諸国（先進国首脳会議メンバー）では日本だけが導入されていませんでした。

裁判員制度は、国民の皆様の積極的な協力なくしては成り立ち得ない制度です。何の罪もない人が突然、残忍な方法で命を奪われる悲しい事件は後を絶ちません。皆様方自身、あるいは身近な人が被害者になるかもしれません。そのとき、国民が刑事裁判に参加して事件の真相を明らかにし、社会全体が納得する解決を目指すことは、自分や家族が生きている社会をよりよくしていくことにつながっていくことだと思います。

検察庁は、皆様に制度の意義・目的を理解していただけるように最大限の努力をしています。私を含め、検察官だけでなく職員一人一人が広報官として、企業、団体等の会合に赴き、裁判員制度の広報啓発活動に取り組んでいます。

どうかその折には、足をお運びいただいて裁判員制度について一緒に考えていただきたいと思います。皆様には、裁判員制度が開始された暁には、すばらしい裁判を行っていただけることを切に願ってやみません。

（はまおかりょうじ／高知地方検察庁検事正）

二〇〇六年かるぽーと秋冬の市民講座「THE裁判員制度」

裁判員制度に関する疑問や不安を解消しませんか？

かるぽーとでは、高知地方検察庁・高知地方裁判所・高知弁護士会の方々にご協力いただき、裁判員制度について学ぶ講座を開催、実際の法廷見学も予定しています。

十月十二日から毎週木曜日午後六時半から八時まで、全四回講座です。

お申し込みや詳細に関するお問い合わせは、財団法人高知市文化振興事業団企画事業課（TEL〇八八―八八三―五〇六一）まで。

高知出身のまんが家を顕す

奥田　奈々美

高知出身のまんが家は、と聞かれた時、誰を思い浮かべるだろう。横山隆一、やなせたかし、はらたいら、黒鉄ヒロシ、コジロー、西原理恵子……新旧問わず、多彩なまんが家が誕生しており、その名を挙げればきりがない。県内外で活躍するプロのまんが家だけでも五十人を超え、さらにセミプロとして活動している人たちも数多くいる。「まんが王国・土佐」と言われるゆえんであろう。

横山隆一記念まんが館の活動目的の中に、「横山隆一の顕彰」と並んで、「まんが文化の振興」がある。とりわけ、高知が生んだたくさんのまんが家を顕し、次代へと継承していくこともまた、大きな目標の一つとなっている。

横山隆一氏については、常設展示において横山隆一展示室を設け、ワンフロアを使用して紹介しているが、その他多くの高知出身まんが家に関しては、スペース上の問題もあり、小さなパネルで簡単な紹介コーナーを設けているにすぎない。

これを補うために、随時企画展を開催している。企画展の柱となっているのが、①所蔵資料展、②総合的まんが紹介、③地元まんがグループ支援展、そして、④高知出身まんが家展である。

青柳裕介、改田昌直、タマリン、くさか里樹。横山隆一記念まんが館では、開館以来、毎年「高知出身まんが家展」として様々な作家を紹介してきた。通してみると、ストーリーまんが、ヒトコマまんが、まんが風似顔絵とそのジャンルは多岐にわたっており、高知のまんが文化が偏ることなく大きな広がりを見せていることがわかる。

五回目となる今年は、「山田章博展～幻想空間へのいざない～」と題し、デビュー二十五周年を迎えた山田章博を取り上げた（七月十五日～九月二十四日に開催）。まんが家としてだけではなく、小説の装画・挿画、ゲームやアニメの設定画など、山田の幅広い画業を紹介することが、今回の展覧会の最大のねらいであった。展示の中心としたのは代表作の原画である。山田の作品は、まんがにしても挿画にしても、物語の中の一場面であるにもかかわらず、一枚の絵としての完成度が非常に高く、その細やかな描き込みに驚かされる。

展覧会場では、ひとつの絵の前で長時間足を止める観覧者も多く見受けられた。

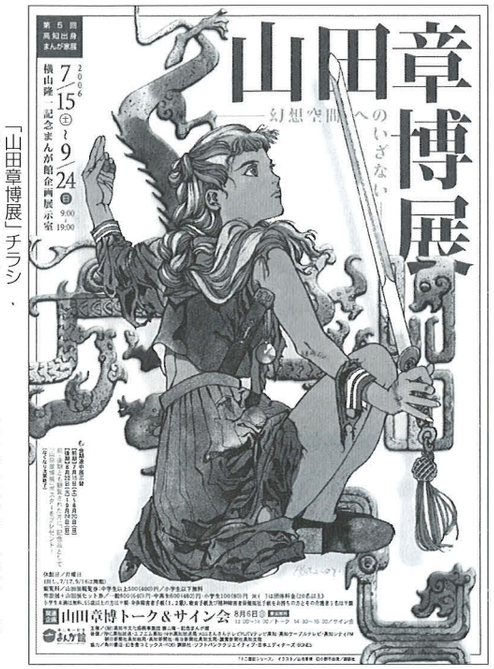
また、山田作品の特徴のひとつとなっているのが、独自の世界観の構築技法である。その下準備段階を紹介するべく、原画だけでなく、まんが作品を描く際に作られた企画書や構想メモなども展示した。制作の裏側がわかる資料となっている。

一方で、アニメやゲームの設定画は、まんがや挿画などとはまた違った性質をもっているため、大きく別コーナーを設けて展示紹介している。設定画そのものが完成形ではなく、制作現場で多くの人が関わることによって作品へと昇華していくための出発点であるからだ。山田の設定画には、多くの説明や追加設定案が書き込まれており、制作現場への配慮が感じられる。検討を何度も繰り返すことにより、舞台となる幻想世界に存在感を与えるという意味では、まんが作品と同様であるともいえよう。

「山田章博展」は、その多岐にわたる画業を紹介することで、まんがのもつ可能性の広がりを感じさせられる展覧会となった。

横山隆一記念まんが館では、今後も、機会ある度に高知出身まんが家展を開催していく。高知のまんが文化がより輝きを増して発展していくことを願ってやまない。

（おくだななみ／横山隆一記念まんが館学芸員）



「山田章博展」チラシ・（「十二国記シリーズ」イラスト／山田章博©講談社／小野不由美）

学芸員シリーズ⑱

海の環境教育

京谷直喜

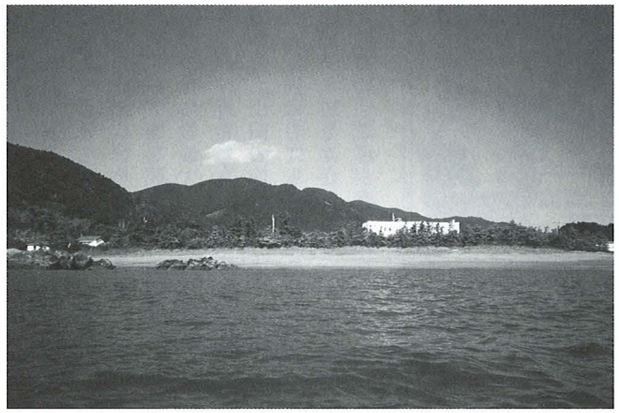
足摺海洋館は、高知県西部、土佐清水市にある水族館で、「土佐の海と黒潮の生き物たち」をテーマに、主に地元で見られる海の生物を展示しています。

当館は足摺宇和海国立公園の一角に建っており、周辺には多くの自然が残っています。館の前には桜浜という砂浜があって、小さな浜ではありますがアカウミガメが産卵にやってきたり、竜串海岸・見残し海岸の景勝地を望む事ができる恵まれた海岸です。しかしながら、このような自然に恵まれた場所でも、砂が減少し、一昔前よりも砂浜が狭くなったと聞きます。また、桜浜の名前は、多くの桜貝が打ち上がり、浜がピンク色に染められていたところから付いた名前だそうです。しかしながら、それも今となっては桜浜で桜貝を拾うことは滅多に無くなりました。

国立公園に指定されてから、三十年以上が経過し、その海の様子は変化しているようです。そう遠くはない昔の、現在よりも遥かに豊かであったであろう自然の様子をもう見ることは出来ないのでしょうか。沢山の貝や魚が捕れたり、カワウソを見かけたりという昔話を聞くと、なんとも悔しい想いになります。

海の国立公園にある水族館としては、その環境保全に対しても、大きな役割があるはずです。果たして、そのために何ができるでしょうか、この海で見られる生物たちを展示し紹介することも大切ですが、もっと強く伝えるにはどうしたらよいのでしょうか。

今年で六年目になりますが、海洋館からほど近い小学校の四年生の総合学習の時間を利用して、月に一回、一年を通し海洋館で海に関するプログラムを行っています。内容は、海藻押し葉、貝殻細工、ビーチコーミング、夜の水族館などです。一学年十人前後の小さな小学校ですが、将来、この地域を守って行くであろう子供達に、自分たちが住んでいる町の海は国立公園に指定されていること、黒潮という大きな海流の影響を強く受けて、高緯度の割に豊かな石サンゴ群落が見られ、温帯性・熱帯性の海洋生物が豊富に見られることなど、この海の特徴や状況を少しでも伝える事が出来たらと考えています。



太平洋から桜浜と足摺海洋館を望む

例えば「ビーチコーミング」では、海岸に流れ着いた様々な物の中から、自然の物と人工の物を選んでもらい、それらがこの海岸に流れ着くまでの過去と、これから先の行く末を想像してもらうというもので、実際に漂着物を探す前に、外国製のペットボトルや、昔使われていたガラス製の浮き玉、ヤシの実や東南アジアに生息するオウムガイの殻など拾った漂着物を見せ、子供達の関心が高まったところで、黒潮の話や、ウミガメがビニールをエサと間違い食べてしまう事などの話を続けてから海岸へと移動します。色々な物が流れ着くことを聞いた子供達は、面白い物を見つけようとじっくりと探し始めます。

これらのプログラムを通じて、生物やそれぞれの環境の面白さを知ってもらい、この海を守っていくために行動してくれたらというのが理想の目標ですが、実際には、私の力不足で、毎回、反省することばかりです。いつの日か桜浜が、ピンク色に染まる日がやってくることを信じて、私自身もっと頑張らなければと思います。

（きょうやなおき／高知県立足摺海洋館学芸員）

高知市文化プラザかるぽーと 7～8月の事業のご報告

◆平成十八年度「アーティストバンク」登録者の募集

「高知市文化プラザ活性化計画」の中の「芸術文化を創造する人材の支援・育成」事業の一つである「アーティストバンク」の平成十八年度の登録者を六月一日～三十日にかけて募集しました。

「アーティストバンク」は、高知県内で活動する音楽・舞踊・演劇の三つのジャンルのアーティストに、市民が気軽にイベント等への出演を依頼できるような環境作りを目的として、昨年度から募集を開始した人材データバンクです。

二年目となる今回は、昨年度登録された六十六組に加えて、新たに十二組のアーティストの新規登録がありました。

登録されたアーティストの情報は冊子の形で学校・病院等の各種施設に配布するとともに、高知市文化振興事業団のホームページでも公開する予定です。

◆美術中級講座「彫塑／日本画スキルアップカリキュラム」

美術分野での人材育成・レベルアップを図る、中級者向けの講座・美術中級講座「彫塑スキルアップカリキュラム」を六月二十七日～七月二十八日に、「日本画スキルアップカリキュラム」を六月二十一日～八月九日にそれぞれ実施しました。

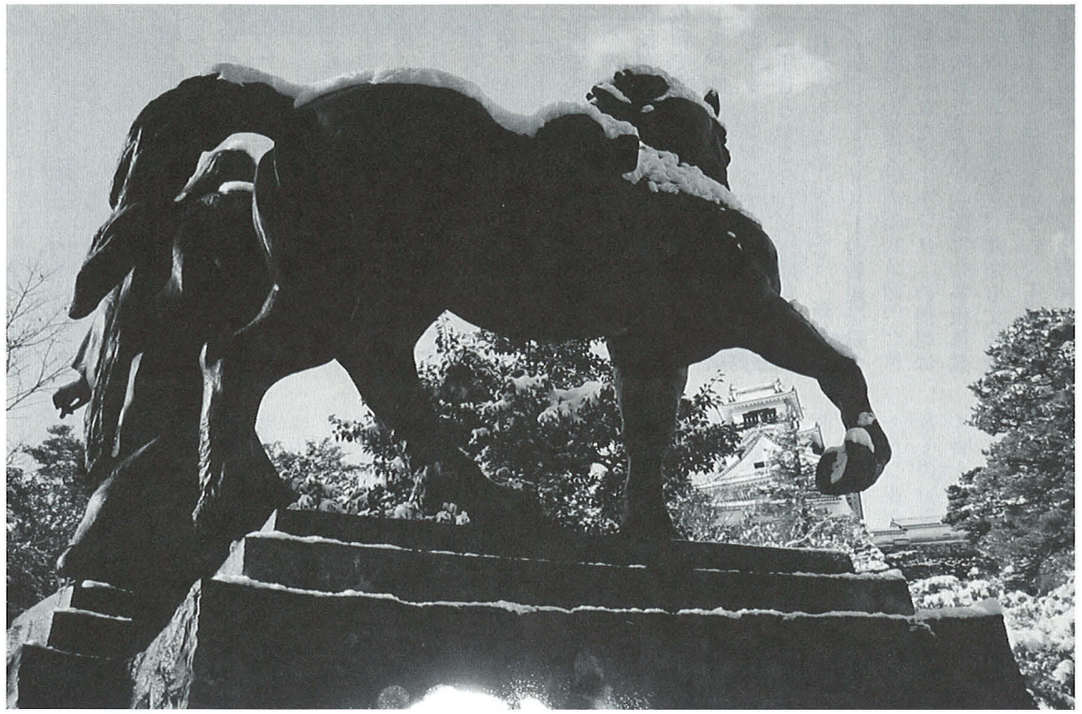
今回は、彫塑教室の講師に小野寺るか先生、日本画教室の講師に土居恒夫先生をお迎えしました。彫塑教室は七名、日本画教室は五名で実施。作品制作だけでなく、作品のディスカッションやアトリエ訪問も行い、有意義な講座となりました。

◆第五回詩のボクシング高知大会

二人の朗読者（朗読ボクサー）が自作の詩を交互に朗読し、ジャッジが判定を下していく「詩のボクシング」。第五回大会を七月二十二日に、かるぽーと小ホールで開催しました。予選を勝ち抜いた十六人の朗読者によるトーナメント戦では、じっくり聞かせる朗読、パフォーマンスで派手に立ち回る朗読、ラップに乗せての朗読など、個性豊かなボクサーたちが様々な表現で会場を沸かせました。

決勝戦はリングネーム〝マドモアゼル愛子〟と〝高瀬草ノ介〟の新旧対決で、即興詩を含む二ラウンドの対戦の結果、五対二で高瀬草ノ介選手が、二度目の高知チャンピオンに輝きました。高瀬選手は十月に東京で行われる全国大会へ高知県代表として出場します。

いま、朗読という分野で自己表現の面白さを追求していく「詩のボクシング」に注目が集まっています。



高知を撮る
第22回写真コンテスト入賞作品

功名のシンボル
（平成17年　高知城公園）

野田　正彦

本年三月二十六日、「安心して食べるために」と題する公開講座が、高新文化ホールで開かれた。〈口のリハビリテーション研究会〉主催。

講師は、宮本寛・〈在宅総合ケアセンター近森〉センター長。

同研究会は、代表世話人である栗原正紀・〈近森リハビリテーション病院〉院長が、前任地の長崎県で立ち上げた、〈口腔ケア支援システム〉の体験を踏まえて、本県においても、結成を提案し、四年前に発足した。

七月一日付で、栗原さんは長崎に帰り、今井稔也新院長と交替したので、この研究会は、前院長の大きな〈置き土産〉ということになる。

宮本さんの講演の要旨は、高知新聞の記事（四月七日付）をご覧いただくこととして、ここでは、多数の論点の一つである〈嚥下（えんげ）機能の低下〉に的をしぼって、その対策の一例をご紹介したい。

〈ホームヘルパーステーション**なの花**〉の野並満香（みつか）さんは、介護福祉士の資格も持つ、経験豊かなヘルパーで、常に患者の身になって、種々の家庭料理を考案している。

その一つが、ジャガイモの雑煮。

ジャガイモを、ゆでてからつぶし、カタクリ粉と水少量を加え、耳たぶぐらいの柔らかさになるまでこねる。

これを、もちのように四角に形づくり、沸騰（ふっとう）する湯でゆでる。

浮き上がってきたら取り出して、雑煮にすると、食感はもちそっくりで、しかも、のどに詰まる心配はない。

介護法の改訂によって、〈介護難民〉という言葉も聞かれる昨今、医師の指導のもとに、患者一人ひとりの心に寄り添うような介護を心掛けるヘルパーの存在は、まことに貴重である。（朴）

ジャガイモの雑煮　風俗歳時記

第150回 市民映画会

「ウォーク・ザ・ライン／君につづく道」

＜本年度アカデミー賞®主演女優賞受賞＞

型破りなラブストーリー。
ちぎれた心をつないだのは、
ギターの弦と彼女の愛。

©2005 TWENTIETH CENTURY FOX

「うつせみ」

〈第61回ヴェネチア国際映画祭監督賞ほか全４部門受賞〉

はかなく美しい夢のような時間。
空虚な心がひたひたと満たされてゆく。

と　　き：９月21日㈭，22日㈮
と こ ろ：高知市文化プラザ 大ホール

上映時間（両日とも）	
ウォーク・ザ・ライン	①11:10②15:20③19:25
うつせみ	①13:40②17:50

料　　金：一般前売り1,300円（当日1,500円）
割引券　　1,000円
（学生証、長寿手帳、障害者手帳などをお持ちの方は割引料金）
※前売券は、かるぽーとほか市内各プレイガイドおよび指定のサニーマートで販売。
※お問い合わせ：㈶高知市文化振興事業団 企画事業課（088-883-5071）

今号の表紙

「真昼の星座（青）」　安藤義孝

新しい展開を模索しているとき、カレントクラフト展に招待された。

今年のテーマは「星」。さて、どうしたものかと思案し、ふと見上げた

真昼の薄曇りの空に、今取り組んでいる作品の部分が見えた……、ように感じた。「イメージとしての体内宇宙」を描き続けて20年以上になる。通常では見えるはずもない世界を今後も追い求めていくのかもしれない。

（あんどうよしたか／
一陽会会員・高知丸の内高校教諭）

高知遺産

風流哉鏡川

花火大会の夜。普段は薊野のマンションの屋上から見物していたけど、今年は潮江橋から見物。こんなにも鏡川に舟が浮かぶ日があったとは。隅田川には負けるかも知れないけど、なかなかに風流な風景。花火が終わると同時に全速力で下流へ飛ばして行く舟たちの姿もまた見物だった。

（竹村直也）

風伯

原生林へ

この数カ月、たまたま山に行く機会があって、ひとりで山に登っている。登山者の大半を占め、遭難の最も多い中高年登山者というわけである。むしろ高年登山者というべきかも知れない。団塊の世代の退職を間近に控え、この傾向はますます強くなりそうである。

デスクワークで退化した私の足腰の軟弱さはいまや人並み以下である。普通なら三十分なり一時間で五分か十分休むようだが、私などは十分も歩くと小休止しなければならない。登山学校に通って何人かで登ったこともあったが、普通の山歩きに私の足腰はついていけない。

それでも毎週のように山に登るのは、ブナやミズナラ、沢グルミといった原生林の、冷気や柔らかい光が私の心身を優しく包んでくれるからで、見晴しのいい頂上に立ちたいとは思わない。そんな山に登り始めてから気付いたことだが、四国の森は本来こんなにも豊だったのかと……。ドライブするぐらいでは、山にはほとんど杉しか見えない。

身近なところに、そんな豊かな森があることに気付かなかったのは、人が住む里山からかなり高いところまで、辺り一面杉や檜の植林で覆われているせいだろう。温暖な気候もあって、山の頂近くに行かないとブナの原生林には出会えないということもあろうが、少なくともこれが、全国一二を争う植林率を誇る高知県の山の現実である。

（春暁改め朝曇）

文化高知 No.133 [隔月発行]
2006年(平成18年)9月1日発行

財団法人 高知市文化振興事業団
〒780-8529 高知市九反田2番1号
TEL(088)883-5011(代表)/郵便振替01680-5-14869

CUL-PORT Musical Workshop

かるぽーとミュージカルワークショップ 第2期 参加者募集

演劇に親しみ、ミュージカルの世界を少しでも理解できるよう、一般の方を対象とした「かるぽーとミュージカルワークショップ」第2期を下記日程で開催します。
今回の講師は、日本のミュージカル・シーンで数多くの舞台を手がけていらっしゃる小川美也子先生をお招きします。自分の身体を有効に使い無理なく発声する方法や、言葉を活かして歌うための技術指導を重点的に行い、ミュージカルでとても重要な「歌をどう演劇的に歌うか」というテーマを追求します。芝居からの流れで歌い演じ、最終日には短い発表のかたちをとる予定です。
また今回もこどもを対象としたワークショップ(4回)も行います。自分をどう表現するか、他人とどう関わっていくかなど、遊びの中から学んでいきます。

講師:小川美也子(おがわみやこ)
早稲田大学第一文学部演劇専攻卒業。1982年いずみたく主宰、「ミュージカル劇団フォーリーズ」参加。同劇団「歌麿」の米公演では、「とりわけ美しい声の持ち主」とワシントンポストに評された。1991年退団後は、ミュージカルのスタッフを活動の中心とし、小椋佳のアルゴミュージカル等でこども達の演技指導に高い評価を得ている。音楽の使い方、出演者の個性を生かした配役などに定評があり、歌唱指導のほかに、演出助手、演出も手がけている。

(主な活動歴)
■歌唱指導作品
「ペーパームーン」、「フットルース」、「母肝っ玉とその子供たち」、「Shoes On!」、「OHダディー!」など
■演出助手・演出補作品
「RENT」、「オケピ!」、「エリザベート」、「MOZART!」、「34丁目の奇跡」、「I DO I DO」など
■演出作品
アルゴミュージカル「フラワー」、「あんず」、「スタート!」、高知国体ジュニアミュージカル「花咲く鏡とお星様」、ヤマハ女の子だけのティーンズエレクトーンライブ「Girls, be dreaming!」
このほかにタレントのヴォイストレーニングや、新国立劇場研修所の歌唱講師も務める。

財団法人高知市文化振興事業団では、「高知市文化プラザ活性化事業」のなかで、「市民参加による創造事業の推進」という目標を掲げて、2008年2月に新たな市民ミュージカルの上演を計画しています。
現在は脚本を制作中で、本公演はワークショップを指導していただいている大原晶子さんと小川美也子さんが演出にあたる予定です。
※本公演については2007年春にオーディションを行う予定です。

	一般コース(高校生以上)	こどもコース(小学3年～中学3年)
日程・時間	10月14日(土)18:30～21:00 / 10月15日(日)11:00～17:00 10月21日(土)18:30～21:00 / 10月22日(日)11:00～17:00 11月 4日(土)18:30～21:00 / 11月 5日(日)11:00～17:00 11月11日(土)18:30～21:00 / 11月12日(日)11:00～17:00	10月14日(土)14:00～16:30 / 10月21日(土)14:00～16:30 11月 4日(土)14:00～16:30 / 11月11日(土)14:00～16:30
会場	高知市保健福祉センター(予定)	高知市保健福祉センター(予定)
募集人員	40人(先着順)	30人(先着順)
参加費	8,000円(8回分)	2,000円(4回分)
申込方法	9月9日(土)9:00より電話にて受け付けます。	9月9日(土)9:00より電話にて受け付けます。

主催:財団法人高知市文化振興事業団　助成:財団法人地域創造(平成18年度高知市文化プラザ活性化事業)　後援:高知市
お申し込み・お問い合わせ:財団法人高知市文化振興事業団企画事業課 088-883-5071 http://www.bunkaplaza.or.jp

今後の予定
第3期(全8回) 2007年1月13日(土) 1月14日(日) 1月27日(土) 1月28日(日) 2月11日(日) 2月12日(月) 2月24日(土) 2月25日(日)

高知市文化プラザ かるぽーと